

パフォーマンステスト「できることインタビュー」(第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : できること・できないことをたずねられて答え、自分からも伝えられるか (知識・技能／思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ)。絵カードは提示用の1部を教卓に置き、そこから1枚選んで持って行ってよい (かるた用の班セットからは抜かない——B班が16枚そろわなくなる)。
ことばの条件	黒板の短冊 (Can you ~? / Yes, I can. / No, I can't. / I can ~.) は掲示したままでよい。ビンゴシート (活動2) を見ながらでもよい。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	選んだ絵カード
B	聞き分けかるた (小声で)。読み手を1人決め、活動シート1の「よみあげ文」を上から順に読む (5文で交代)	活動シート1・絵カード (班用)
C	「すごい人メモ」の清書。空きマスは班の中の人にだけ小声できく (立ち歩かない)	活動シート2
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (学校のもの)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。緊張の強い子は、友だち1人といっしょにテスト席へ来てよい (先に友だちが受け、それを聞いてから受ける)。2人同時に1回にはしない——発話が半分になり、同じ力が測れない。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし）

2 Can you swim? / Can you ride a bike?

（Yes, I can. / No, I can't. で答えられるか。1～2問）

3 Nice! What can you do? Tell me!

（自分から I can を1～2文言えるか。カードを見せながらでOK）

4 Wow! Who is a superstar in this class?

（挑戦枠。自分のメモから1人。He[She] can で紹介できたら◎——第7時のランキング1位と同じでなくてよい。言えなくても減点しない）

5 （ここで3秒、だまって待つ）

（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）

6 Thank you! See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと できることの数・むずかしさは評価しない（「I can run.」1文でも満点になり得る）。習い事の有無や道具のいる動作かどうかとも無関係。No, I can't. とははっきり言えたら、それは立派に「伝わった」——can't を減点材料にしない。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	Can you ~? に Yes, I can. / No, I can't. で正しく答え、自分からも I can ~. を使って1~2文で伝えられる	支えの質問を受けながら、Yes / No と I can ~. を1文言える	絵カード2択（Swim? Sing?）で選んで単語+ジェスチャーで伝えられる→掲示の短冊と一緒に指さして1文だけ再挑戦
思考・判断・表現	質問に合う答えを選び、Me, too! / Really? などを返すだけでなく、間があいても Can you ~? と自分から質問を1つ作って、やり取りを落とさずに続けられる	質問に合った答えを返せる	質問と答えがずれる→質問をゆっくり2回くり返し、絵カードを見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	ビンゴでは多くの友だちに自分から声をかけ、あいづちや聞き返しに加えて質問をもう一つ足しながら、やり取りを続けようとしていた。振り返りに自分のめあてと手ごたえが具体的に書かれている	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれのできることがいちばん意外だった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で、名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【**知技・a**】「Can you play dodgeball?」の学習で身につけた Can you ~? のたずね方と Yes, I can. / No, I can't. の答え方を使い分け、自分のできることを進んで伝えることができました。

【**知技・b**】黒板の短冊を見ながら、Can you ~? とたずねられたことに Yes / No で答え、自分のできることを I can ~. の文で伝えられるようになりました。

【**思判表・a**】相手が Yes と答えた話題から質問をつなぎ、ビンゴで集めたメモをもとに「意外なすごい人」を1人選んで、そのすごさが伝わるように話す内容を決めていました。

【**思判表・b**】クラスの友だちをもっと知るために、ビンゴのマスに入れる動作を自分で選び、相手に合わせて Can you ~? の質問を変えながらやり取りすることができました。

【**態度**】ビンゴがそろってから空いたマスをうめようと取り組み続け、Yes と答えてくれた友だちの名前を1マスずつ増やしていきました。振り返りカードには、次に聞いてみたいことを書かためています。

【**態度**】友だちのできることを聞いて「すごい!」と受けとめ、He can ~. と学級全体に紹介するなど、英語で伝え合う楽しさを味わっています。

【**はげまし型**】聞き分けかるたでは、can と can't を聞き分けて、取る・取らないを自分で決められるようになりました。ビンゴでも絵カードを1枚手がかりにすれば Can you ~? とたずねられ、名前の書けたマスが増えていきました。

【**接続型**】can と can't の音のちがいに耳から十分に慣れ親しみ、He can ~. と友だちのことを話す経験も重ねました。中学校で学ぶ助動詞や三人称の学習に、実感を伴ってつながる土台ができています。

【**発展・★3**】かきかたワークでは、ことばバンクから自分に本当に当てはまる言い方をえらび、I can と I can't の2文を書き上げました。語と語の間、文頭の大文字、ピリオドまで整っていました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる（順番は入れ替えてよい）。できることの中身（習い事・特技）そのものをほめる書き方は避け、「たずね方・伝え方の成長」を書く（家庭の状況や経済状況に触れないため）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。